

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400224		
法人名	医療法人 陽晃会		
事業所名	グループホーム 壽幸園		
所在地	高知県吾川郡いの町天王南5丁目2番地の14		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数のグループホーム(6人定員)の利点を活かし、利用者一人ひとりの人柄や能力に着目し、その力を発揮してもらいながら自分らしく暮らしてもらうことを念頭に日々の支援に取り組んでいる。利用者同士の助け合い、生き生きとした表情や明るい笑顔、笑い声の絶えないアットホームな事業所であり、地域住民からも温かい声かけをもらっている。また、正職員、パート職員に共通した教育システムを取り入れており、統一した職員資質の確保に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972400224&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな造成地の住宅地域の中に立地し、1階にはデイサービスセンター、2階はグループホームとなっている。利用者は家庭的な雰囲気の中でお互いを気遣いながら支え合うとともに、職員は利用者の持つそれぞれの役割を大切にしながら利用者の状況に応じ専門職の助言を得ながら向上心を持って支援している。地域との関わりについても利用者は健康体操やお茶会サロンに出かけたり、事業所として地域の防災活動に参加している。また、運営推進会議でも評価結果や当面する課題事項について意見交換を行い、地域からの助言や協力をもらうよう努めるなど、今後も地域の事業所としての発展が期待される。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 壽幸園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の基本理念を基に、入居者が住み慣れた地域で安心して暮らし、関係性を継続できるよう支援していく事業所の理念がある。ミーティングや職場会で話し合いながら日々のケアの中で実践に取り組んでいる。	日々のミーティングや職員会で理念について話し合い、地域との交流や利用者本位の生活を大切にした支援を意識付け、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月3回のコミュニティーセンターでの健康体操や地域のお茶会サロン等に参加し、地域住民の方と交流している。また、近所の量販店からは購入品の配達があるなど、日常的な交流がある。	地域で開催されている健康体操やお茶会サロン、カラオケ大会等に参加したり、フリーマーケットに出店するなど、地域住民と交流している。また、地域向けの便りを発行するなど、関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人クラブや町のミニデイサービス担当者の勉強会に管理者が講師として出席したり、専門学校の実習受け入れなども積極的に行っている。	/	
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを報告し、参加メンバーから質問や意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。また、評価結果とその対応についても報告し、助言や協力を得ながら取り組んでいる。	事業所から運営状況や評価結果とその対応状況、継続事項等について説明している。参加委員から意見や地域の身近な情報提供を受け、運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの協力を得て、町内のグループホーム介護支援専門員会を年2回行っている。	運営推進会議を通じて運営状況を伝えたり、制度に関する相談、研修情報や退居した利用者の状況把握など、日頃からつながりを持つよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加し、事業所内でも伝達講習を行い、職員の理解を深めている。利用者の外出に対しても、止めることなくさりげなく声かけしたり、一緒について行くなど安全面に配慮しながら支援している。また、外に出たくなる理由を探り支援を行うようにしている。	研修等を通じて身体拘束について学び、職員の意識を高めている。言葉による抑制についても日頃から職員同士で注意し合い、利用者にも納得してもらおうよう気長に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会において勉強会のテーマに取り上げ、高齢者虐待法に関する理解、浸透を図るとともに、遵守を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修に何度か参加し、勉強会を通じて職員の理解を深めている。必要に応じて説明や相談に乗るなど支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な支援内容について説明している。利用者の状態の変化により契約解除に至る場合は、本人を交えて家族等と対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で入居者との会話や表情などから利用者本人の意向を把握するようにしている。また、家族とは面会時や運営推進会議、家族会の機会を通じて意見等を聞くようにしている。	日々の関わりの中で利用者の意向等を汲み取り、家族の来訪時は必ず声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。家族会は行事に合わせて2カ月毎に開催しているが、家族のみで話し合う機会は設けていない。	より深く家族の意見や要望を引き出すためにも、家族会の際には家族のみで話し合う機会を設けるなど、工夫することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会や日々のミーティングにおいて職員の意見、提案等を聞くようにしている。また、日頃から職員への問いかけなど、コミュニケーションを図るよう心がけている。	職員会やミーティングの機会を捉え、気軽に職員から提案や意見を出してもらい、必要に応じて法人の定例会に報告するなどして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など職員の努力や実績に応じた手当を支給したり、月1回の職場内研修会には時間外手当を支給するなど、向上心を持って働けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を月1回開催したり、年1回の職場外研修は職務免除扱いにするなど配慮している。また、管理者を中心に職員個別の○JT指導にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、交流や研修を通じてネットワークを築いたり、町内のグループホーム介護支援専門員会で交流の機会を持ち、質の向上を図るように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握するように努め、本人の心身の状況や思いに向き合い、早期に信頼関係を築くように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今、何に困っているか、不安に思っているかなど、ゆっくり聞き、事業所として対応できることについて事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげる等の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかに生活ができる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子や職員の思いをきめ細かく家族に伝え、家族と職員の共有意識を高め、共に協力しながら支援していく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容院を利用したり、絵手紙教室の葉書を遠方の友人等に送り、電話や葉書のやりとりにつなげるなど、関係が継続するよう支援している。</p>	<p>馴染みの美容院や喫茶店を利用したり、家族の協力で墓参りなどに出かけている。また、ボランティアの指導で絵手紙を作成し知人に送るなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の人間関係を職員間で共有したうえで、お茶の時間等には職員も一緒に多くの会話を持つなど関係づくりに配慮したり、作業を通じて利用者同士の関わりや支え合う場面づくりに配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居の際は、家族と一緒に地域包括支援センターに出向き、移転先を探すなどの支援をしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、言葉や表情、行動から本人の思い、意向、希望等を把握するように努めている。把握が困難であったり不確実な場合は、本人の視点に立って検討したり、家族に意見を伺うなどしている。</p>	<p>日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、職員の気づきも含めてアセスメントシートに記録し、職員間で共有するとともに利用者本位のケアにつなげている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式のアセスメントシートを利用し、入居時のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、本人、家族から聞き取りながら、これまでの生活歴等の把握をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことの現状を把握し、気づきノートや日々の記録、申し送り等により本人の全体像を感じとるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から、ケアについての思いや意見を聞き反映させている。また、職員全員によるモニタリングやアセスメントを踏まえカンファレンスを行いプランを作成している。	利用者との関わりや家族との面談等で意向を引き出し、職員の気づきも踏まえてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、気づきノート、個別記録により本人の変化や状況を全職員で共有できるシステムがあり、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携加算は取っていないが、訪問歯科や協力診療所による訪問診療を受けている。また、個別の接骨院等への受診は職員が送迎するなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の健康まつりへ作品を出展したり、コミュニティセンターで開催される健康体操やお茶会サロンを利用し、地域の方の協力を得ている。また、地域の夏祭りのカラオケ大会に参加したり、秋祭りには出店するなど、地域資源を活かしながら利用者の暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医としており、基本的には家族同行の受診となっているが、家族の都合や緊急時には職員が対応するなど、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	利用者、家族の状況に応じて、希望するかかりつけ医で受診したり、往診を受けている。家族による通院介助を基本としており、必要に応じて職員が支援している。また、受診ノートで受診結果等の情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はなく、訪問看護の契約もしていないが、状況に応じて母体法人でもある協力診療所の看護師、法人内のデイサービスや居宅支援の看護師の資格を持つ職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のダメージを極力減らすため支援方法を医療機関に提供するとともに、見舞いも兼ねて利用者の身体状態等の確認に出向き、病院側と連携を図るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的に看取り支援に取り組んでいく方向で検討し指針を作成している。また、運営推進会議にも報告し、現状や今後の対応について意見交換している。	評価結果を受けて看取り指針を作成し、運営推進会議や家族会にも報告するなど、取り組みに向けた協議や意思疎通を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当の実技研修等を受け実践できるよう努めている。また、現場の不安解消も含めて応急手当のビデオ学習を継続したり、夜間緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の法人の避難訓練とは別に夜間想定や地震想定の実技研修をしたり、年1回は消防署の協力も得て訓練を行っている。事業所の訓練には地域住民の参加もあり、事業所として町の訓練にも参加している。また、災害に備え保存水や非常食も用意している。	併設のデイサービスセンターと合同の避難訓練を実施している。運営推進会議でも訓練の結果等について話し合うなど課題意識を高めている。地域住民の関わりも見学から参加型へと協力を得ている。非常用食料等の準備もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時にパート職員も含めて人格の尊重やプライバシーの確保についてオリエンテーションを行うとともに、日常的な介護の場においてもプライバシーに配慮し誇りを傷つけない声かけや対応をするよう注意している。	職員会等で利用者の人格の尊重やプライバシーの保護について職員に周知を図っている。トイレ誘導時の声かけなど、日々のケアの中で利用者のプライドを傷つけないよう対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたことを押しつけることはせず、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決められる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切ったりせず、一人ひとりの体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に自由に服を選んでもらうようにし、重ね着や季節に合わない場合には職員がそつと手直しするなど支援している。また、馴染みの美容院に行ったり、訪問美容など利用して好みの髪型に整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたい物を買に行き、調理方法もできるだけ好みに合わせている。また、男性の利用者が魚の料理をするなど、個々の力に応じて参加してもらうようにし、片付けも主体的に取り組むよう支援している。	利用者それぞれができる能力に応じて食事作りや配膳、後片付けなど役割分担をしながら職員と一緒にしている。また、職員も同じ食卓を囲んで和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェックし、職員間で共有しながら不足しないよう支援している。また、年1回栄養士による専門的なアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、声かけや見守り、介助など、利用者の状況に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。また、失敗した場合は周りに気づかれないよう手早く処理し、本人を傷つけないよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してタイミングをみてトイレで排泄するよう誘導している。また、個々に応じて紙パンツや布パンツパッドを使い分け、自立に向けた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維類の多い食材や乳製品を取り入れたり、より体を動かすための散歩や体操、日常の家事労働の中で運動を取り入れるなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴する方やその日の気分で中止となる方など、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせ、声かけのタイミングに配慮するなどして支援している。	利用者の希望に沿った入浴となるよう支援しており、利用者によっては毎日入浴している。入浴をあまり希望しない利用者もタイミングや声かけなどの工夫により2日に1回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えよう支援している。また、利用者個々の体調や表情、希望を考慮して、ゆっくり休息がとれよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに処方箋のコピーを利用者毎に整理し職員が把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡し、服薬できているか確認している。症状の変化等があれば管理者に報告するとともに職員間で共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらうよう役割を担ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて買い物や散歩に出かけている。月に1度は、車で出かける計画をたてたり、家族の協力も得ながら外食や墓参りなどに出かけている。	日常的に周辺の散歩や量販店での買物、喫茶店などに出かけている。また、ドライブや外食などの機会を設け、利用者にとって楽しみとなるよう外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により家族の協力を得て、可能な限りお金を持っている利用者もいる。事業所が管理している利用者も外出時にはお金を手渡し、自分で支払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の絵手紙教室で書いた葉書や年賀状を出せるように支援し、年賀状の返信便りが届くなどやりとりをしている。また、希望に応じて本人自ら電話するなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井からの採光はコンピューターによりやさしい光が差し込むよう制御され、陽だまりのような温かさを自然に作り出している。また、季節に合わせた野の草花を活けたり、行事の飾りつけ等は利用者と相談しながら取り組んでいる。	居間には季節に応じた花を活けたり、飾りつけを行うなど、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。また、利用者同士で会話したり、一人でゆっくりくつろげるようソファーや椅子を配置し、共有空間の中にもそれぞれが落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや職員室のソファー、古いオルガンを利用した一人掛けの椅子など、入居者が思い思いに過ごせるよう居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族とも話し合いながら、できるだけ使い慣れた物を持参してもらい、馴染めて安心できる居室となるよう工夫している。	家族写真や本人の作品等を飾ったり、使い慣れた家具等を置くなど、それぞれ個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間は居室内トイレには照明を灯したり、扉の開閉の幅も利用者に合わせて工夫している。居室入口の表札を利用者の目線に合わせて高さにしたり、タンスに貼り紙をして収納物が分かるようにするなど、自立した生活ができるよう配慮している。		

ユニット名:

壽幸園

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				